

区分：報告

掲載日：2019年4月4日

内容：2018年度(平成30年度)外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会を開催しました。

開催報告

2018年度(平成30年度)外国につながる子どもの学習支援ボランティア研修会 ～子どもによりそう学習支援～

<概要>

- 目 標：学習支援教室のボランティア活動を振り返り、子どもによりそって支援するための工夫やアイデアを共有し、一人一人の子どもによりそう学習支援のあり方を考える。
- 日 時：2019年2月14日（木）、21日（木）、28日（木）
10:00-12:00 全3回
- 場 所：横浜国際協力センター共用会議室
(2/14：5F、2/21、2/28：6F)
- 対 象：横浜市内及びその近郊で外国につながる子どもの学習支援をしている方
- 参加者：第1回 35名、第2回 36名、第3回 35名（延べ106名）
- 講師他：第1回：コーディネーター 唐木澤みどり（YOKE）
事例紹介 竹内千佳さん（ほどがや国際交流ラウンジ子どもの勉強会）、
水本みゆきさん（ユッカの会）
コメンテーター（情報提供）
土屋隆史先生（横浜市教育委員会事務局国際教育課主任指導主事）

第2回：講師 水谷裕子先生（NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク理事長、
心理カウンセラー、傾聴セミナー講師）

第3回：講師 齋藤ひろみ先生（東京学芸大学教授）



研修会の様子
今年度もたくさんの方が
参加してくださいました！

第1回研修会 「みんなどうしてる? ~わたしたちの『よりそう支援』~」

コーディネーター：唐木澤みどり (YOKE)

研修会初回は、事前アンケートのまとめ紹介、横浜市内2つの学習支援教室の事例紹介、教育委員会からの情報提供があり、参加者で共有しました。後半のグループ活動では、受講者それぞれの「よりそう支援」の工夫とアイデアを伝え合い、ディスカッションを行いました。最後に各自が考える「わたしのよりそう支援」を共有しました。

*事前アンケートのまとめ紹介：唐木澤みどり (YOKE)

事前アンケートで皆さんからいただいた工夫やアイデア等をまとめて紹介しました。学習場面以外にも様々な工夫をされていました。

*横浜市内の学習支援教室の事例紹介：

竹内千佳さん（ほどがや国際交流ラウンジ子どもの勉強会）
水本みゆきさん（ユッカの会）

待つこと、共感すること、子ども目線で考えることなど、それぞれの教室の「よりそう支援」のための工夫とアイデアを紹介していただきました。

*横浜市における日本語指導が必要な児童生徒への支援と「国際教室」について：

土屋隆史先生（横浜市教育委員会国際教育課主任指導主事）

外国籍及び外国につながる児童生徒のための支援と、国際教室がある学校での取り組みや指導例を紹介していただきました。また、学習支援教室は子どもたちにとって大切な楽しい居場所であり、そのために苦労されている支援者自身にとっても楽しみのある居場所であってほしいというメッセージもいただきました。

*グループ活動と全体共有

「わたしたちの『よりそう支援』～工夫とアイデアを共有しよう！」

前半の事前アンケート紹介、教室事例紹介、教委からの情報提供をふまえて、グループでお互いの「よりそう支援」のための工夫とアイデアを交換しました。活発な意見交換が行われ、最後に一人一人の「わたしの『よりそう支援』」を紙に書き、共有しました。学習支援者がお互いに知り合い、お互いの活動を知る機会にもなりました。



第2回研修会 「子どもに寄り添う学習支援～子どもの心を聴く～」

講師：水谷裕子先生（NPO 法人アーモンドコミュニティネットワーク理事長、
心理カウンセラー、傾聴セミナー講師）

「寄り添う」ということ、子どもにとっての「居場所」の必要性、関係性づくりのための「傾聴」の大切さなど、講師の経験をふまえ、お話しいただきました。

後半は、子どもの心を聴くための傾聴実習を行いました。
聴き手/話し手に分かれて、実際に「傾聴」を体験しました。

*講師のお話

「寄り添う」とは人との関係をつくっていくということ、そのために「傾聴」＝相手が主役のコミュニケーションが大切とのお話がありました。
また、講師自身の活動体験から、「今、必要なこと」、「この人（子）のために」と様々な活動を作っていく中で、個々の活動が繋がったり、広がったりしてきた様子が窺えました。支援の場が、地域の中の「親と子どもが安心できる居場所」としてあり続けることが大事だと教えていただきました。



*傾聴実習：ペア活動

ペアになり、5分ずつ交代で相手の話を傾聴する実習を行いました。

「より良いコミュニケーション」を支えるために、座るときの相手との距離や向き合う位置、姿勢等についてのアドバイスもありました。

5分間人の話を聴き続けることに大変さを感じた人もいましたが、限られた時間の中でも徐々に話し声のトーンが落ち着き、ペアごとにお互いの姿勢や仕草が類似していく傾向が見られ、貴重な体験となりました。



第3回研修会 「子どもたちによりそう『学習支援』を体験する～多様性を学びに！～」

講師：齋藤ひろみ先生（東京学芸大学教授）

文化間移動をする子どもの声（作文）を題材にしたグループ活動やロールプレイを通して、ライフコースを捉え、学びの連続性を意識した支援をすることが地域で子どもたちによりそうことにつながることを学びました。
また、参加者の教室で学ぶ子どもたちの課題やそのための支援について、グループで情報交換し、共有しました。

*グループ活動：文化間移動をする中学生の作文から

「なぜ小学1年生の時にサポートがなかったのか」、「なぜ中学になってことばがわからなくなったのか」について意見交換しました。



*ロールプレイ：支援者と進路選択に悩む中学生との相談場面

支援者と子ども、それぞれの立場になって、前回学習した「傾聴」を活用し、支援者が子どもの話を傾聴し、本当の気持ちを理解したうえでどのように助言をしたらよいかを考えました。



*グループ活動：皆さんの教室で学ぶ子どもたち（困難・課題、支援についての情報交換）

まず、各自が自分の教室に来ている子ども、困難・課題、支援について付箋紙に書き、紙に貼って整理しました。その後、グループでお互いに紙を見せながら話し合い、情報交換、意見交換を行いました。

全体共有では、それぞれの支援活動が、子どもの社会参加や市民としての暮らしをどう支えているのかを確認しました。最後に、講師から他地域の支援活動事例が紹介されました。



参加者の声（各回のアンケートより一部抜粋）

- 様々な団体のボランティアやスタッフの方と意見交換できたことが、とてもためになりました。
- 子どもとの信頼関係を築くことや共感することの大切さを改めて学びました。
- 相手が話しやすいように「相手のその人らしさ」を引き出すように、傾聴に徹することを心がけたいと思いました。
- 相手のことを知ろうとするあまりつい質問が多くなってしまいがちですが、それでは相互の気持ち理解し合えないことがわかりました。
- “よりそう” こと、“支援する” ことの具体的なアイデアが様々な立場からいただけました。
- ロールプレイなど、児童生徒の立場になって、支援者の立場になって考える場があってよかった。
- 地域の学習支援教室の役割について再考する機会になりました。